

「国語」五年教材『百年後のふるさとを守る』について

ご指導にあたって

編集本部長 鷺巣学

このたびの東日本大震災に被災された方々に心よりお見舞いを申し上げます。また、震災により亡くなられた方々に対し、謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

さて、今年度よりご使用の弊社国語教科書五年に『百年後のふるさとを守る』（河田恵昭）という教材がございます。浜口儀兵衛^{はまぐちぎへい}という、江戸末期、安政大地震の際に村人を津波から避難させ、その後村の復興に尽くした人物を取り上げた伝記で、文中には、当時の津波の様子の記録も引用されております。

この教材の学習時期は六月です。今回の震災では、児童・生徒をはじめ先生や保護者の方々も甚大な被害を受けておられます。このような状況の中、本教材のご指導にあたりましては、格段のご配慮を賜りますようお願い申し上げます。現在、困難な状況下でご尽力されている学校並びに関係者の方々に深く敬意を表したいと存じます。弊社も、発行者としてできることを精一杯努める所存です。

被災された地域・学校、みなさまの一日も早い復興・再生を心よりお祈り申し上げます。

被災地のみなさまへ

河田恵昭

とんでもない大災害が起こってしまったことに深い悲しみを感じています。被災地にも行つて参りました。避難所で多くの小中学生にも会いました。いま頭の中が悲しみでいっぱいです。私にできることは、まず被災した児童・生徒に寄り添い、悲しみを共有することだと思っています。

十六年前の阪神・淡路大震災で被災した子どもたちは、精神的に深く傷つき、それを癒すために長時間を要したことがわかっています。深い悲しみはPTSD（心的外傷後ストレス障害）となつて、決して時間が経過すれば忘れることができるものではありません。阪神・淡路大震災でも、教育者・防災研究者は多くのことを学びました。それを知っていただきたいのです。兵庫県教育委員会・神戸市教育委員会に問い合わせていただきますと、適切なアドバイスを得ることができます。

たとえば、いきなり大震災に関する

作文などを書かせるなどということは、もつてのほかです。また、メディアのインタビューを受けるのも間違っています。被災した児童・生徒が二度と涙を流すような行為は禁止です。こころの傷が少しずつ浅くなるにも、慎重な取り組みと長い長い時間が必要だということをご理解下さい。

また、被災者には将来の希望やのぞみを持つていただくことが大切だと考えています。政府には三月末に被災地復興のグランドデザイン案を届けました。主人公の浜口儀兵衛は自力でそれを立派に実行しました。このような偉人の生き方に感動し、自分もそうなりたい、そして協働社会の一員となつてくれるように願うばかりです。

河田恵昭^{かわた けいし}

一九四六年大阪府生まれ。防災学者。現在、関西大学社会安全学部長・教授。神戸にある「阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター」のセンター長を兼務。災害による被害を少なくする減災や危機管理を研究し、社会安全学の創設を目指している。二〇〇四年新潟県中越地震災害救援金配分委員会の委員長を務めた経歴をもつ。主な著書に『これからの防災・減災がわかる本』（岩波書店）など。